

とおかまち



あけましておめでとう



橘保育園から 「あけましておめでとう」

今年3月で閉園となり、39年の歴史に幕を閉じる橘保育園。最後の園児となる22人の子どもたちは、ホールで遊びまわったり、大きな声で歌ったりと、冬の寒さにも負けずに元気です。そんな橘保育園の園児から、手作りヘビといっしょに新年のごあいさつをお届けします。

主な内容

- 新年のごあいさつを申し上げます 2
- 特 集
- 市長対談 ～JEN事務局長・木山啓子さん～ 3-7
- お知らせ・ガイド 8-13
- 連載コーナー
- ときめきネットワーク／歴探 ほか 14-15
- 元氣予報／ぐるり十日町宝さがし ほか 16-17
- ジュニア芸術祭 18

新たなステージに向けて

十日町市長 関口芳史

年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆さまには旧暦より市政運営に特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は「夢を実現する年」として、これまで議論を重ねてきたことや準備してきたことを確実に前進させることができた年であったと思っています。

特に、第5回大地の芸術祭では、期間中延べ49万人もの皆さまからお越しいただき、当地域の魅力を感じていただきました。限られた期間でしたが、怒涛の人の流れを創れば地域が元気になるということを確認しました。この大地の芸術祭をおした地域活性化の取組みは、同じ課題に取り組む全国の自治体にとっても、先進的な事例になっていると感じています。

会期終了後も「大地の芸術祭の里」という越後妻有ブランドの発信力を高め、次回に向けてしっかりと準備を進めてまいります。

市民生活においては、介護施設などの福祉施設の増設やへき地保

育園の認可への移行、そして十日町小学校の改築に併せた発達支援センターの開設準備など、「人にやさしいまちづくり」を着実に前進させることができました。また、平成21年度から着手した市街地の地籍調査による住所表示変更の第一号の実施や、合併以来懸案事項であった除雪体制の今後のあり方の方向性を示すなど「安全・安心のまちづくり」を形にすることができました。

加えて、うれしいことに市内では、地域活動や各団体をサポートする「市民活動ネットワーク」と「サポ」や、まちのにぎわいの創出や中心市街地の活性化に寄与することを目的にした「NPO法人にぎわい」が設立されるなど、地域内外の若者たちがあちらこちらで「活力ある元気なまちづくり」を進めており、この自主的に取り組む新たな活動をとっても頼もしく感じています。

そこで、今年はいよいよ新たなステージへ向かいます。まず1つ目は、産業育成と雇用

促進です。市内のがんばっている企業や新たに進出する企業に事業拡大のための支援を行います。投資を行う事業者にも積極的に関わることで、地域経済の活性化と定住に向けた雇用の確保を図ります。

2つ目に、これまで地域おこし協力隊の配置や交通空白地解消など、集中的に実施してきた中山間地対策に加えて、今後は中心市街地活性化の取組みも加速させます。幸い、事業者の皆さまから市街地活性化の多くの提案をいただくことができました。この民間投資と行政事業を組み合わせることで、未来に向けた市街地の基盤づくりとにぎわい創出を進めます。

3つ目に、市民協働の取組みをさらに進めます。昨年4月から市内各地域に発足した地域自治組織は、協働のまちづくりの仕組みとして、今後重要な役割を担うこととなります。市としては、自主・自立による持続可能な地域運営が図られるよう、昨年に引き続き活動財源を手当てしながら各組織を支援し、全国に誇れる協働のまちづくりを進めます。

4つ目に、これまで大胆な市役所改革・行財政改革により財源を

つくり出し、市民福祉向上に向けた取組みを進めてきましたが、今年はサービスの質をさらに高めるよう不断の見直しを行い、市民の皆さまにより浸透できる事業に磨きあげていきます。

これらを確実なものとするために、市民の皆さまの声をよく聴き、丁寧に対応することで市政の課題の一つひとつに対応してまいります。そのことが、私の揺るぎない信念である「選ばれて住み継がれる十日町市」の実現に結び付くものと思っています。

農地・農業用施設の復旧など、喫緊に取り組まなければならない課題もまだありますが、これらも引き続き全力で取り組んでまいります。

十日町市には魅力的な地域資源が豊富にあります。また、十日町市に思いを寄せてくださる方々も大勢います。これら地域の宝と、人と人とのつながりを大切に、さらに十日町市を元気にしていきます。

結びに、本年が市民の皆さま一人ひとりとつてすばらしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

市長対談 第4弾

奇跡の集落 池谷・入山 復興を支えたJENの活動

JEN事務局長・木山啓子さんに話を聞く



十日町市に魅力を感じてくれる人に関口市長がお話を伺うこの恒例企画。市長が公務先でいろいろな人とお話しする機会がある中、「十日町市はすばらしいね」と言われることがたくさんあります。そのような人の声を市民の皆さんに紹介し、外から見た十日町市の良さや魅力をお伝えします。

第一章

被災から復興へ 奇跡を呼び寄せた奇跡的な集落

集落支援に入ったのは 中越大地震がきっかけ

平成16年の中越大地震で大きな被害を受けた池谷・入山集落。高齢化と人口減少により閉村の危機を迎えていましたが、「NPO法人JEN」に出会い、集落はその後、みごとに復興を果たしました。集落の復興を支援してきたJEN事務局長の木山啓子さんに、活動の拠点となる、「やまのまなびや（旧池谷分校）」で話を伺いました。

（関口市長）JENの皆さまからは、中越大地震後に池谷・入山集落に入り、復興を支援していただきました。このことは大きく報道され、とても有名なことなのですが、市民には意外に知られていないのです。

（木山さん）私たちは海外の紛争地での住民支援を活動の中心としていて、緊急段階から自立までを支援するのが特徴です。中越大地震が発生したときは、国内の出来事でしたので、支援は必要ないだろうと思いましたが、ニュースなどで被害の大きさを知り、阪神・淡路大震災のことが脳裏に浮かびました。私たちは、大規模災害時は行政だけの支援では復興が難し

いことを経験で分かっていたため、支援の必要性を感じました。

中越大地震の被害は十日町市のみならず、川口町や小千谷市など広範囲に及びましたが、どうして池谷・入山集落を選んで支援に入ったのですか？

JENをサポートしてくれた画家が、偶然にも池谷の隣の閉村した入山にある空き家をアトリエにしていました。その人に被災状況を確認したところ「ぜひ支援に来てほしい」と言われたのがきっかけです。今までは海外の地域に対する活動をしていたのですが、日本でも真に必要とされている支援と判断して活動を開始しました。

震災後、すぐにボランティアを送り込んで活動していただきましたが、実際に被災地を見ていかがでしたか？



きやま けいこ 木山 啓子さん Keiko Kiyama

特定非営利活動法人JEN理事・事務局長。千葉県生まれ。大学卒業後、電機メーカーなどに約7年間勤務。その後ニューヨーク州立大学大学院（社会学）修士課程修了。1994年AMDAネパール勤務を経てJEN創設に参加し、旧ユーゴスラビア現地統括責任者として6年間駐在。2000年から現職。以降、モンゴル雪害、アフガニスタン内戦、インド西部地震、エリトリア帰還難民、イラク復興、中越大震災、パキスタン地震、スマトラ沖地震、レバノン難民、中越沖地震、南部スーダン帰還難民、ミャンマー・サイクロン災害、ハイチ地震などの支援活動に従事、指揮する。おとしは東日本大震災直後から宮城県石巻市への支援に乗り出し、今も復興へ向けての活動を続けている。一方で「自立支援とは？」や「難民・被災者の教え」「極限の中で人は何を求めるのか」「学び方・働き方」などをテーマに、全国各地で講演活動を展開。2005年エイボン女性功績賞受賞、日経ウーマン誌ウーマン・オブ・ザ・イヤー 2006大賞受賞。著書に「誰かのためならひとはがんばれる―国際自立支援の現場でみつけた生き方」（かんき出版）

活動を始めると、過疎化に拍車をかける災害であることが分かりました。このような災害に対する支援で気をつけていることは、「被災前よりも良い状態にしない」とことです。これは、震災前よりも良い状態にするお手伝いをしたら、皆さんが私たちに依存してしまうためです。ですから、本来であれば、今まで以上のことはできないのですが、池谷・入山に対しては違いました。自立支援を考えたとき、根本の要因である過疎化に対して手だてをしないと復興できないと判断したのです。

―復興には人手が必要ですが、過疎により若者が流出している場所では、その問題を解決しなければ復興に必要な要素を満たさないわけですね。

山集落での活動の様子をホームページから見られますね。活動を振り返って集落の人と話していると、JENがボランティアを送ってくれたから活動が成り立ったと言ってくれます。しかし、私たちがいくらボランティアを送り込んでも、その人たちがもう一回訪れたいと思わなければ、支援は継続できないのです。活動を振り返ると、池谷という場所と、そこに住んでいる人たちに、本当に魅力があつたんだとつくづく感じています。私を含めて一度でも訪れたことがある人は、必ずまた来たいと言うんですよ。JENの力ではなく、この地域自体の魅力が継続のポイントでしたね。

―JENの皆さんの活動は世界をまたにかけていますが、池谷・入山集落は、ボランティアにもう一度訪れたいと思わせてくれる場所

―そう言うってもらえとうれしいですね。この地域全体に魅力があるということですが、十日町市の人たちの魅力をどんなところに感



活動の拠点「やまのまなびや」を案内する木山さん

じましたか？

まず皆さんが持っている「想い」が、私も含めて多くの人を惹き付けたのだと思います。そもそもここで活動する組織の名前を決めるとき、池谷・入山だけが良くなればいいのではなくて、周辺地域、ひいては十日町市全体でよくなっていきたいという思いがあり、組織名に池谷・入山の名称は入れず、「十日町市地域おこし実行委員会」という名称になりました。組織した当初から皆さんが展望をしつかり持っていたんです。

―設立当時からですか。被災して一番せつなかつたときのに市全体を良くするためにがんばるという気持ちがありがたいです。

そうですね。逆に、もし池谷・入山の名称が入った名前をつけてたら、「自分たちのことをサポートしてほしい」と言っているよう

なものなので、これほど多くの方がサポートしたかなとも思いました。自分たちだけが良くなることを望んでいるわけではなく、自分たちががんばることで、ほかのみんなも巻き込みたい、そしてみんなで幸せになりたいという思いが、多くの人を惹き付けたのですね。

おじいちゃんが未来を語れる集落。JENは背中を押しただけ

―震災の後、FMとおかまちによる池谷の復興を取材した特集が、放送業界でとても大きな賞の「ギャラクシー賞」を受賞しました。そのときに、70歳を超えたおじいちゃんが、30年以上未来のビジョンを語る、すごい集落だと思いました。この池谷の取組みにとっても驚いたことを覚えています。私たちは、活動当初から、過疎

を逆転させるという思いを持っていましたが、むらの皆さんはなかなか言葉でそれを語りませんでした。「このままだと村が絶えてしまう。本当は絶えさせたくない」という思いを初めて聞いたときその思いは深く、強いものだと感じました。

―皆さんのような本質を見据えながら活動をしている組織が、被災した池谷・入山に入っていたということは、奇跡的な巡り合わせと

第2章

復興から未来へ

池谷・入山から日本中を元気に

当たり前にあるものの価値をみがく

―JENの皆さんの支援で集落が再生したわけですが、池谷に入ったときはどのようにして集落の皆さんを励ましたのですか？

私たちは励ますために特別なことをしていません。ただ、ご飯があまりにおいしいから、「おいしいおいしい」と言って食べるのです。そうすると、皆さんは「そんなにおいしいの？」って聞きます。生まれたときから食べてき

たので、他と比べてのおいしさを知らなかったのですね。

―そうですね。ご飯は確かにおいしいと思うけど、ご飯のおいしさは、どこもこれが当たり前前と思うかもしれません。この「食」の良さは、当市が誇れる魅力の一つです。

そこに気付いたことで、むらの皆さんは励まされたのではと思います。初めて自分たちにとって当たり前前なことの価値が分かったのですね。池谷は復興してきていますが、日本全国の大きな災害に見

舞われた地域でも、当たり前にあつたものの価値を再発見して復興に生かしてほしいですね。

このがんばりが東北の皆さんを元気づける

―集落の皆さんは、棚田を利用し山のわき水で栽培した米を「山清水米」として売り出しましたね。

そうですね。皆さんのすばらしいところは、このようなことを、割とすぐに始めたところですね。また、池谷の成功・奇跡が、東日本大震災で被災し元気をなくしあきらめそうになっている宮城県石巻の人たちをとて勇気づけています。

―とても大きな影響力ですね。震災から立ち上がった皆さんだからこその支援だと思っています。

池谷の皆さんは石巻の人と交流をしてくれて、この山清水米と石巻の海苔をおにぎりセットとして販売しているんですね。



集落の棚田で育てられた「山清水米」

—そういうご縁がある地域と仲良くなり、連携していかねければならないと思っています。外部との関係を持つことは自分のポテンシャルを引き出す一番の特効薬ではないですか？

そうですね。縁があるところとは軽やかにどんどん付き合ってみてほしいと思いますね。

—木山さんは石巻で、「十日町市にはこんな集落があるんだよ」という話をしているのですか？

実は、今日もそうなのですが、私自身、ここに来ただけで元気をもらっています。ですから、石巻では元氣のない人たちに、「十日町市に行ってみたら」って声を掛けます。ここに來たらさまざまなことが起こっているの、脳もハートも刺激されます。その刺激が、自分たちも何かできると感じさせるのではと思います。

—そうですか。ここでのがんばりが東北の皆さんにもよい影響を与えているということは、設立当初の理念にもつながります。池谷が震災から6年で自立できた事実は、全国の同じ課題に取り組む地域の励みになりますね。

池谷が災害から復興し、自立を果たしたことを機に、平成22年に

自立式を行いました。私たちの支援の一区切りです。これは私たちが活動している地域では初めてのことです。その後も自分たちの力で「十日町市地域おこし実行委員会」をNPO化するなど、みごとにこの地域は立ち上がりました。

自分のまちにすばらしい集落があり、すてきな人たちがいることを十日町市の人に知ってほしい

—十日町市の市民の皆さんに対してメッセージがあったらお聞かせください。

集落の皆さんは、集落を存続させて、十日町市、ひいては日本や世界を元氣にしたいという将来像を示していて、本当に皆さんが私たちを元氣にさせているのです。ですから、多くの市民の皆さんにも自分の住んでいるまちにこのようすばらしい集落があることをもっと知ってほしいです。

—そうですね。意外に周辺の集落の動きは気づかないかもしれません。近くだからいつでも行けます。直に見たり体験したりすることができるのは貴重ですよ。

—地元の人は良さが分からないかもしれませんが、普段から興味を持って、良いものがあると思った

ら行動してみるのが大事だと思います。

生活のための知恵や工夫を束ねて、移住支援の仕組みを作りたい

—震災後、農業研修で長期滞在した初山旭太さんに続いて、多田さん夫妻から集落に来ていただきました。そして今、2人の若い女性も住んでいただいています。皆さんJENとのつながりですね。

多田さんは、震災後にボランティアとして池谷に来ていて、移住に興味があることを聞いていました。「住んでみたいけど生活していくことが難しい」とのことだったので、生活の糧として地域おこし協力隊を勧めてみました。女性たちもJENで呼びかけたボランティアで訪れたのが最初です。

—皆さんが十日町市全体を考えていただける発想を持っていることがうれしいです。今後、十日町市に来てくれる人たちの受け皿になる活動をしていただきたいという願いを抱いています。市でもボランティアや移住の仕組みを作り、十日町市を訪れたい・住みたいと思っている人が安心して来ることができるまちづくりをしたいのです。皆さんからそんなまちづくり



1 集落に定住している若者の皆さん。写真左から小佐田美佳さん、多田朋孔さん、坂下可奈子さん。



2 平成22年11月にJICA東京講堂で行われた池谷・入山集落の自立式。JENから支援を受けるつながりから、パートナーとしての新たな関係に成長しています。



3 4 11月3日(土)に行われた、池谷・入山収穫祭。地域おこし協力隊によるバンド演奏や住民による寸劇も行われ、集落は大いに盛り上がりました。



5 集落再生を目的に行われている「田んぼへ行こう!!」。市外から多くの人が集まり、いっしょに米づくりをします。

を進める自信をいただきました。

—ありがとうございます。しかし、移住者を増やしたいと思っても、住居の確保が問題です。職も厳しいですが住居もなんとか支援してあげなければいけません。

—生活を継続していくことは、簡単ではないかもしれませんが、しかし、市内にはさまざまな方法で生活を豊かにするためにがんばっている集落があります。冬の間、雪に覆われるこの地域で生活を続けていることは、いろいろな知恵と工夫、多くのがんばりがあってのことだと思っています。だから、それをもっと自慢して共有していきたいですね。池谷の皆さんも市内のほかの地域の良い面も取り入れてさらに良くなってほしいです。

—そうですね。やはりそういう人

豊かな里山に囲まれた池谷・入山集落

平成16年に発生した中越大地震で大きな被害を受けた池谷集落。平成元年に閉村した隣の入山集落と合わせ、集落周辺は震災後6世帯13人まで減少、高齢者中心の集落住民はムラを捨てることを決意したといいます。その池谷集落にJENが都会からの若者をボランティアとして年間100人ほど連れて復興支援を始めました。集落は地域住民が中心となってボランティアを受け入れる「十日町市地域おこし実行委員会」を立ち上げました。現在はボランティアの若者に加え、世界的な大企業の社内研修のほか、地域おこしに興味のある団体など年間1,000人も人が訪れ、池谷は十日町市の復興のシンボリック地域となりました。そのボランティアの若者の中から、平成22年に多田朋孔さん夫婦が地域おこし協力隊として子ども連れで移住。翌年にはさらに20代の女性2人が移住してきました。都会からの若者の移住もあり、閉村間近といわれた池谷はついに再生を果たしました。復興に目処がついたと判断したJENは平成22年に自立式を開催。平成24年には組織をNPO法人化し、持続可能な集落存続の仕組みを作りました。



たちとつながっていてもいいと思います。緩やかな協働といいますが、がちりひとつの組織で囲い込んでしまうと、かえって身動きが取りにくい気がします。

—楽しみです。まだ若い組織ですが、将来性があり、どこまで大きくなってくれるだろうと期待をしています。池谷の活動が十日町市の、ひいては日本の課題解決につながる可能性が十分にあると思います。

私には、ここに人があふれ、若者も多くなり、みんなが楽しんで生活している姿が目に見えます。

—木山さんにそう言ってもらえると本当に元氣が出てきます。ありがとうございます。今後ともご支援よろしく願います。

第64回 十日町雪まつり 各種募集&ご案内

☎十日町雪まつり実行委員会事務局（☎757-3100）

◇ボランティアガイド募集

雪まつりに訪れる来訪客に観光案内をしませんか。事前に講習会を開催しますので気軽に参加してください。

- 活動日＝2月16日(土)・17日(日)
- 活動場所＝JR十日町駅東口前、本町分庁舎内の雪まつり案内所、または巡回バス車内
- 対象＝おもてなしに意欲のある健康な人
- 業務内容＝観光客からの問合せへの対応など
- ☎1月25日(金)までに十日町雪まつり実行委員会事務局

◇ツマリアンボール出場チーム募集

3チーム同時に対戦する雪上バレーボール大会の出場チームを募集します。

- 開催日＝2月17日(日)
- 会コミュニティひろば(十日町高校グラウンド)
- ¥1チーム4,000円
- ☎1月30日(水)午後5時までに申込書（ホームページ：<http://snowfes.jp/>）からも入手可）を十日町雪まつり実行委員会事務局へ郵送（〒948-0082 十日町市本町2 本町分庁舎内）または持参。ホームページから電子申請による申し込みもできます。※応募多数の場合は抽選

◇十日町きもの女王コンテスト2013 有料観覧席のご案内

十日町きもの女王コンテストを間近で観覧できます。有料観覧席には女王を決める一般審査員としての投票券がもれなく付いてきます。※当日も一般審査員を募集しますが、先着順となります

- 日2月17日(日) 午後1時～
- 会クロスステッチ
- ¥1,000円（大人・子ども共通）※一般審査員投票券付き
- 定約30席（予定）※希望者多数の場合は抽選
- ☎2月4日(月)までに十日町きもの女王ホームページ（<http://kimono-queen.com/>）もしくは電話で十日町雪まつり実行委員会事務局



- 対高校生以上
- ¥3,000円
- ☎2月15日(金)または申込みが450人に達した時点で
- ☎申請用紙（市観光協会越後まつりだいの陣ホームページからも入手可）に必要事項を記入して越後まつりだいの陣実行委員会へ持参・郵送（〒942-115 920 十日町市松代3252 | 1 松代支所内）・☎597-2300・電子メール（matsudaikankou@ybb.ne.jp）のいずれかで送付



「のつとれ!松代城」 出場戦士募集

雪上みこし「活き!生き!合戦」 参加団体募集

みこし合戦への参加団体を募集しています。表彰・賞金もあります。みこしの規格など詳細については問い合わせください。

日3月9日(土)午後7時～

対市内在住または在勤者を代表とする8人以上の団体

☎2月8日(金)または申込みが12団体に達した時点で

☎越後まつりだいの陣実行委員会

第26回 越後まつりだいの陣

会松代総合グラウンド
開越後まつりだいの陣実行委員会（☎597-2220）

日日時 休 休館日 会 会場 対 対象者 ¥ 料金 定 定員 内 内容 持 持ち物
講 講師 他 その他 ✕ 締め切り 申 申込み 問 問合せ F F A X

催し・講座



～お知らせ・ガイド～

本町分庁舎ギャラリー

十日町雪まつりの華、歴代雪上カーニバルステージのパネル写真展です。

日2月17日(日)まで

会ぼろろ広場（本町分庁舎内）

¥無料

問生涯学習課（☎757-8918）

「甦ったSL飯山線を走る」

日1月12日(土)～20日(日)午前9時30分～午後7時※日曜日・祝日は5時、20日は4時まで

休15日(火)

会情報館

問生涯（☎756-2281）

2013にいがた就職ガイダンス

主に県内下越地区に就業場所を予定する企業が参加する、学生対象の合同企業説明会です。

日1月15日(火)午後1時～4時

会朱鷺メッセ（新潟市）

対平成25年3月高校・大学などの卒業予定者、平成22年3月以降大学などの卒業生

参加企業70社を予定※詳細はハローワーク新潟ホームページをご覧ください

問新潟県労政雇用課（☎025-280-5270）

十日町総合高校美術部6人展

美術部3年生による校外作品展です。3年間の集大成をぜひ、ご覧ください。

日2月1日(金)～3日(日)午前9時30分～午後5時

会情報館

問十日町総合高校・金澤（☎752-3186）

看護学生・看護職員 病院就職ガイダンス

県外在住の看護学生や看護

催し・講座

募集

福祉・健康

子育て

スポーツ

くらし・相談

募集



十日町市特別職報酬等審議会見学者募集

職員を対象に、「病院就職ガイダンス」を東京で開催し、県内病院へのU・イターンによる就職活動を支援します。

日2月3日(日)午後1時～4時

会東京都立産業貿易センター台東館（東京都）

問新潟県福祉保健課（☎025-280-5178）

特別養護老人ホーム「七川荘」職員随時募集

明るく、やる気のある人を随時募集しています。

募集職種Ⅱ介護員1人、看護師2人、訪問介護員1人

これでよくわかる！放射線・放射能の基礎知識

福島第一原発の事故以来、私たちが暮らしていく上で、放射線や放射能について考えることは避けられなくなっています。しかし、新聞やテレビで流される情報では十分に理解できないと感じている人も多いのではないのでしょうか。

今回の学習会は、基礎的な知識や情報を改めて理解するためのものですので、気軽に参加してください。

日1月27日(日) 午後2時～4時

¥無料

定申込み先着30人

講飯塚裕幸さん（埼玉医科大学中央研究施設RI部門助教）

会・申・問1月25日(金)までに中央公民館（☎757-5011）

放送大学 4月生募集のお知らせ

放送大学では平成25年度第1学期（4月入学）の学生を募集しています。放送大学はテレビやインターネットを利用した通信制の大学です。資料を無料で送付していますので電話で問い合わせるか、放送大学ホームページから請求してください。

●出願期間Ⅱ2月28日(木)まで
問放送大学新潟学習センター（☎025-228-2651）

寄付ありがとう

12月25日届出分まで（敬称略）

●とおかまち応援寄附金＝石田望（東京都中野区）、小池俊夫（熊本県熊本市）、藤巻慎一（東京都新宿区）、藤巻嘉須美（東京都新宿区）、吉田力夫（東京都練馬区）、加藤美奈（神奈川県横浜市）、佐藤幸子（京都府京都市）、加藤康之（兵庫県姫路市）、平野宏志（東京都品川区）、近藤知樹（東京都目黒区）、森正雄（神奈川県相模原市）、櫻澤博文（神奈川県横浜市）、飯沼克博（神奈川県秦野市）

●博物館へ＝霜垣五郎（20,000円）

●国際交流・文化スポーツ基金へ＝かわにし音楽祭実行委員会（30,000円）

●つくし園へ＝イオン十日町店（ブルーレイDVDプレーヤー・療育玩具）

●高山保育園へ＝本町クリニック・高橋修一（対面4人乗りベビーカー）

●必要書類など申請の詳細は市ホームページ「市政・まちづくり」から「入札情報」をご覧ください。

●平成26・27年度の入札参加資格審査申請は26年2月に受付予定です。

●建設工事の入札参加資格申請には経営事項審査を受けていることが必須条件です。必ず審査を受けてから申請してください。経営事項審査申請の詳細は県土木部管理課建設室（☎025―285―5511）に問い合わせてください。

●施設管理や清掃業務など役

●必要書類など申請の詳細は市ホームページ「市政・まちづくり」から「入札情報」をご覧ください。

●平成26・27年度の入札参加資格審査申請は26年2月に受付予定です。

●建設工事の入札参加資格申請には経営事項審査を受けていることが必須条件です。必ず審査を受けてから申請してください。経営事項審査申請の詳細は県土木部管理課建設室（☎025―285―5511）に問い合わせてください。

●施設管理や清掃業務など役

●申請受付日＝2月28日（木）3月1日（金）

●交付＝3月15日（金）から随時

●受付・交付時間＝午前9時～正午、午後1時～4時

●受付・交付場所＝十日町地域振興局

●南魚沼地域振興局県税部十日町収税課（☎757―5513）

●新潟県の最低賃金は時間額689円

●新潟県に適用される地域別・産業別の最低賃金が689円に改正されました。

●他産業別の最低賃金はホームページ（<http://www.saieichingin.info/>）をご覧ください。

●新潟労働局賃金室（☎025―288―3504）

●11月10日号お楽しみ企画結果「知っていますか？とおかまちはこんなところ、あんなところ」は正解者がいませんでした。今後も皆さんから楽しんでもらえる企画を実施しますので楽しみにしてください。

●申請受付日＝2月28日（木）3月1日（金）

●交付＝3月15日（金）から随時

●受付・交付時間＝午前9時～正午、午後1時～4時

●受付・交付場所＝十日町地域振興局

●南魚沼地域振興局県税部十日町収税課（☎757―5513）

●新潟県の最低賃金は時間額689円

●新潟県に適用される地域別・産業別の最低賃金が689円に改正されました。

●他産業別の最低賃金はホームページ（<http://www.saieichingin.info/>）をご覧ください。

●新潟労働局賃金室（☎025―288―3504）

●11月10日号お楽しみ企画結果「知っていますか？とおかまちはこんなところ、あんなところ」は正解者がいませんでした。今後も皆さんから楽しんでもらえる企画を実施しますので楽しみにしてください。

トオコンseason3「本選会」の結果発表

12月15日（土）、県内外の大学生がビジネスプランを競い合う十日町市ビジネスコンテスト「トオコンseason 3」本選会がクロステンで開催されました。大学生ならではの視点で見た新しいビジネスの可能性などの提案に、120人以上が詰めかけた会場は感嘆の声であふれていました。審査結果は次のとおりです。（プラン名／チーム名／所属大学）

【最優秀賞】
「Collect十日町」 カタログ革命～十日町の魅力、大集合～／High FIVE／東京農工大学

【第2位】
大地の音楽祭／国際ボランティア学生協会IVUSA／東京家政大学・国士舘大学・日本大学・大妻女子大学

【第3位】
あなたも農業できますよプロジェクト／チーム長尾／新潟大学

※提案されたプラン（予選会を含む）を事業化する場合は、その経費の一部を支援します。詳しくは下記に問い合わせるか、公式ホームページ（<http://www.toocon.jp/>）をご覧ください

●産業政策課産業企画係（☎757-3139）

12月15日（土）、県内外の大学生がビジネスプランを競い合う十日町市ビジネスコンテスト「トオコンseason 3」本選会がクロステンで開催されました。大学生ならではの視点で見た新しいビジネスの可能性などの提案に、120人以上が詰めかけた会場は感嘆の声であふれていました。審査結果は次のとおりです。（プラン名／チーム名／所属大学）

【最優秀賞】
「Collect十日町」 カタログ革命～十日町の魅力、大集合～／High FIVE／東京農工大学

【第2位】
大地の音楽祭／国際ボランティア学生協会IVUSA／東京家政大学・国士舘大学・日本大学・大妻女子大学

【第3位】
あなたも農業できますよプロジェクト／チーム長尾／新潟大学

※提案されたプラン（予選会を含む）を事業化する場合は、その経費の一部を支援します。詳しくは下記に問い合わせるか、公式ホームページ（<http://www.toocon.jp/>）をご覧ください

●産業政策課産業企画係（☎757-3139）

●税務課市民税係（☎757-3716）または各支所市民課

●市民税の申告相談会を開催します

●税の申告相談会を次の日程で開催します。会場によって相談日が異なりますので開催日を確認のうえ、機会を逃すことがないようにしてください。なお、十日町保健センターで開催する申告相談会は、例年どおり2月18日（月）～3月15日（金）に開催します。詳しくは、市報1月25日号に掲載します。

●申告の事前相談会を開催します

●税務課では、期間中の支所申告会場の混雑・待ち時間の緩和のため、次の人を対象に申告の事前相談会を開催します。

●農業所得収支内訳書や医療費明細書の作成に困っている人

●市・県民税の申告が必要な人

●自分は申告が必要なのか、判断に困っている人

※対象は原則として当該支所地域の人ですが、ほかの地域の人も相談を受けることができます

※相談を希望する人は、各支所市民課に相談日・時間・内容などを事前に予約してください

●税務課市民税係（☎757-3716）または各支所市民課

●市民税の申告相談会を開催します

●税の申告相談会を次の日程で開催します。会場によって相談日が異なりますので開催日を確認のうえ、機会を逃すことがないようにしてください。なお、十日町保健センターで開催する申告相談会は、例年どおり2月18日（月）～3月15日（金）に開催します。詳しくは、市報1月25日号に掲載します。

●申告の事前相談会を開催します

●税務課では、期間中の支所申告会場の混雑・待ち時間の緩和のため、次の人を対象に申告の事前相談会を開催します。

●農業所得収支内訳書や医療費明細書の作成に困っている人

●市・県民税の申告が必要な人

●自分は申告が必要なのか、判断に困っている人

※対象は原則として当該支所地域の人ですが、ほかの地域の人も相談を受けることができます

※相談を希望する人は、各支所市民課に相談日・時間・内容などを事前に予約してください

●入札期間＝2月19日（火）午後1時～26日（火）午後1時

●入札確定日時＝2月28日（木）午後5時

●入札物品の詳細や申込方法などについては、市ホームページ及びヤフー官公庁オークションのホームページ（<http://koubaiauctions.yahoo.co.jp/>）で「十日町市」「十日町市土地開発公社」を選択してください

●※積雪があるため、入札物件の下見会は開催しません

●財政課管財係（☎757―9914）

●平成25年度十日町市入札参加資格の追加申請について

●平成24・25年度十日町市入札参加資格を有していない人で、25年度に市が行う建設工事、建設コンサルタントなどの業務、物品購入の入札に新たに参加を希望する人は参加資格審査の申請を行ってください。

●受付期間＝2月1日（金）～28日（木）※期間外は受付不可

●資格有効期間＝平成25年4月1日～26年3月31日

●入札期間＝2月19日（火）午後1時～26日（火）午後1時

●入札確定日時＝2月28日（木）午後5時

●入札物品の詳細や申込方法などについては、市ホームページ及びヤフー官公庁オークションのホームページ（<http://koubaiauctions.yahoo.co.jp/>）で「十日町市」「十日町市土地開発公社」を選択してください

●※積雪があるため、入札物件の下見会は開催しません

●財政課管財係（☎757―9914）

●平成25年度十日町市入札参加資格の追加申請について

●平成24・25年度十日町市入札参加資格を有していない人で、25年度に市が行う建設工事、建設コンサルタントなどの業務、物品購入の入札に新たに参加を希望する人は参加資格審査の申請を行ってください。

●受付期間＝2月1日（金）～28日（木）※期間外は受付不可

●資格有効期間＝平成25年4月1日～26年3月31日

松前に渡った歌舞伎興行
衣装方の記録③
船坂・徳永家文書「懐中録」

天保13年（1842）年1月、芝居興行を差し止められた啓助は、金策に奔走しました。当面の暮らしのため、芝居衣装は25両で質入れされ、芝居興行にも支障が生じていました。心労が重なる中、啓助は帯状疱疹にかかってしまいました。激しい痛みに耐えながら、「所持金も無く、三度の飯はたくあん漬ばかりで心細い。越後は大雪だと聞いたが、家族は毎日毎日、帰りを待っているに違いない」と悲痛な心情を記しています。

結局、この年の早春、啓助は松



歴探！

古文書が語る
ふるさとの歴史

十の巻

前（北海道）で息を引き取りました。帰国した熊本は、9月になってようやく衣装の持主である徳永家に詫びに訪れました。同家の主人徳右衛門が態度のはつきりしない熊木に問いただしていくと、最終的に70両ほどの損金が生じていることが分かりました。同家では「二番良い衣装を持つていったのに一つも帰ってこなかった」と伝えられています。

啓助にとつて松前での歌舞伎興行は、衣装方として大きな夢を抱いた、命をも賭けた大事業となつたのでした。

■問合せ…博物館

☎757-5531

くずし字なもうイヌ

北海道村

（クイズの答えは17ページ）

ときめき ネットワーク

地元への恩返しの気持ちで

松代で生まれ育ち、一時は上越で働いていたこともありすが、現在は地元の福祉施設で働いています。今の事業所に勤めて12年、デイサービスの仕事は2年になりました。きっかけは祖父の「受けてみたらどうだ」という言葉。祖父孝行のつもりでしたが、今では感謝の気持ちでいっぱいです。施設の利用者は、仲間の家族であったり、昔ながらの顔なじみの人であったりします。昔は元気で良くしてくれた近所の人、老いている姿を見ると、寂しい気持ちにもなりますが、お互い知っている者同士の親近感の中で仕事ができ、地元の良さを感じます。

「ここにきて楽しかった」と言つて帰つてほしい。地域の人の助けがあつて今の自分があるので、皆さんにお世話になった恩返しの気持ちでこれからもがんばります。



室岡 秀貴 さん

1976年生

松代デイサービスセンターほのぼの園 勤務

先月の佐藤未来さんからのバトンタッチ

できることから、やってみよう

～はぐくみのまちづくり運動～

●問合せ：生涯学習課 ☎757-8918

【今月のテーマ】

共食の大切さ

「共食」という言葉をご存知ですか。これはあまり聞きなれない言葉ですが「共に楽しく食事をする」「家族みんなで食事をする」といった意味があります。

共食を実践していると、

- ◎食事マナーやよい食習慣が身につく
 - ◎日々変化する子どもの成長を確認することができる
 - ◎家族の会話が弾み、食事が楽しくなる
- というように望ましい食行動・食生活が実践できるといわれています。

一方、この言葉に相対する言葉として「孤食」があり、読んで字のとおり、独りで食事をすることを意味します。

孤食が日常化すると、

- ◎心や健康状態、食行動、食事内容に問題を抱える子どもが多くなる
- ◎よく眠れない。イライラやだるくなりやすい
- ◎頭痛を起こしやすい
- ◎不安や恐怖を感じやすい

などといった不調が起きる傾向があります。

「うちはいつも家族いっしょに食べている」と思っている、テレビを見ながら、携帯電話・雑誌・新聞を見ながらの「ながら食べ」ではお互いの様子もうかがえず、会話も進みません。ライフスタイルの変化から毎日3食、家族そろって食事ということは難しいかもしれませんが、できることなら1日1回、あるいは週に2～3回は家族そろって楽しい食事をする心をかけましょう。



地産地消 新鮮

おいしい

農家の皆さんが丹精込めてつくっています。

十日町産を食べよう！

No.29 ロマネスコ



上の写真は、市内（吉田山谷）の渡辺健一さんの畑で栽培されているロマネスコです

地元で作られたものを
地元で食べる。

その営みを拡大するために、十日町で作られている農産物などを紹介していきます。

とても芸術的な形をしている珍しい野菜。その名はロマネスコ。鑑賞してもよし、食べても良しの野菜です。

ロマネスコはカリフラワーの仲間、別名「うずまきカリフラワー」ともいわれます。個々のつぼみが規則正しいらせんを描きながら、円すいを形作っているのが特徴です。鮮やかなライムグリーンの色と相まって、見ていても楽しい野菜です。味はカリフラワーと似ていますが独特の甘みがあり、食感はコリコリしています。市内ではあまり作られていない珍しい野菜ですが、千年の市じろばたで2個200円で販売されています。珍しく個性的なロマネスコを、ぜひ一度お試しください。

〈収穫時期〉11月～2月

〈おいしい食べ方〉

カリフラワー同様にゆでる、煮る、炒める など

●問合せ：農林課農業企画係 ☎757-3120



10年前に埋めたタイムカプセルの掘り出し

今年、町内発足40周年を迎えた上川町。上川町は周辺の川原町、田中町本通り、本町6-1から分離して昭和47年に発足しました。発足10年ごとの節目には記念式典・祝賀会を開催して盛大に祝い、記念誌を発行してきました。



40周年記念事業実行委員長金子甚二さん(77歳)は、「77世帯で発足した町内が、11月には30周年のときに埋めたタイムカプセルの開封と50周年に向けたカプセル埋設を行い、多くの子どもたちが参加しました。

金子さんは、「冬季の雪出し場の敷地を貸していただけなど、多くの皆さんの協力で町内が成り立っています。この町内の宝はまさに子どもたちを含む町内の皆さん。これからも宝を大切にしていきたい」と話しました。

暮らしの護身術

～「金」の購入契約一受け取りは20年後!?～ 10

花子が久しぶりに母方の祖母たけの家を訪ねると、たけに相談を持ちかけられました。

《たけ》先月地金購入のパンフレットが届いて。電話もかかってきて「金が値上がりしているから今買っといた方が得だ」って言わんそ。いろいろ説明してくれて、代金は分割でいいって言うし、買おうかと思ってらんだも…

《花子》どれどれ、パンフレット見せて。あら？これって現物の受け取りが20年後じゃない！それに途中で解約したら解約料がかかるって。おばあちゃん、説明された？

《たけ》20年後？解約料って？そっけなん聞いてねえて！

【15ページ「歴探」くずし字村名クイズ答え】…江道村

ハッ(つ)

【アドバイス】 長期にわたる契約には自分の年齢の問題や事業者の倒産の可能性などのリスクがあります。事業者の話と書面などを良く確認し、すぐに契約することは避けましょう。契約してしまった場合は、下記相談窓口にご相談ください。

【注意情報】

市内で『光回線を使用した電話』『直収型固定電話(※)』の相談が増加しています。「電話代が安くなる」「工事費は不要」などと勧誘され契約したが、電話代はそれほど安くない、工事費がかかったなどの苦情が寄せられています。

(※)NTT以外の会社が提供の固定電話サービス
【1・2月は悪質商法被害防止キャンペーン月間です】

●問合せ：十日町市消費生活相談窓口
(産業政策課商工振興係内 ☎757-3740)
平日／午前9時～午後4時

明けてましておめでとうござい
ます。本年もよろしく願
います。

▼昨年12月25日号のタウンピック
スに掲載しましたが、中里地域で交
通死亡事故ゼロの日が2,000日
を達成し、記念の交通安全大会を開
催しました。2,000日という
約5年半。この間、死亡事故が起
きてないことの背景には、ドライバ
ーの皆さんが安全運転を心がけ、歩
行者の皆さんも反射材などを身につ
けるなど、事故に遭わない工夫をさ
れていることが一つの要因でしょう。
交通事故は本人だけでなく、家族や
仲間もとても辛い思いをします。交
通事故をゼロにすることは困難な道
のりですが、今年一年市内で不
幸な事故が起きないことを願って
います。

ハッ(石)

わが家のアイドル(4歳未満の幼児)募集中！
申込み・問合せは企画政策課秘書広報係 ☎757-3112まで



小川 琉斗ちゃん
おがわ りゅうとちゃん
平成21年10月8日生まれ
尾崎
(写真右)

昨年お兄ちゃんになった琉斗ちゃん。妹のことを聞くと「愛心(あみ)ちゃんはかわいいから好き！」と元気いっぱいに答えてくれました。

あいどるきやう 91



外山 采実ちゃん
とやま ことみちゃん
平成23年9月25日生まれ
千歳町
(写真右)

体を動かすことが大好きで、皓涼(こうすけ)お兄ちゃん困ってしまうほど元気な采実ちゃん。お気に入りの曲が始まるとかわいいダンスを披露してくれます。

元気なお年寄りを紹介し、
健康の秘けつなどをうかがいます。

和顔愛語

～はつらつ おばあちゃん～

5



星名 ツルさん(中条旭町・100歳)

「家族がみんな支えてくれるから長生きできたんじゃないかしら」と笑顔で話す星名さん。100歳の誕生日には子ども・孫・ひ孫が集まってお祝いしてくれたそうです。そんな星名さんの元気の秘けつは「声を出すこと」。毎日朝食前に仏壇の前で15分ほどかけて大きな声でお経をあげているそうです。また書道が趣味で、おとしし出品した全国規模の書道展では佳作を受賞したほどの腕前です。

元気予報



健診結果を健康づくりに生かしましょう

生活習慣病予防は、健診を受けて自分の体の状態を知ることから始まります。

市では健診をきっかけに、生活習慣を改善したい人が集まり、運動実践教室(脱メタボ教室)を実施しています。昨年度教室に参加した34人の本年度の健診結果は、体重が平均で1.3kg減少、7割の人が糖尿病の血液検査の値(ヘモグロビンA1c)が改善していました。

【改善に向けて取り組んだこと】

- ①食事
- ・腹八分を目安に、ゆつくり食べる
- ・果物やおやつなどの間食を半分に
- する
- ・アルコール摂取の休肝日をつくる
- ・夜寝る直前に食事をしない など

②運動

- ・歩く、テレビを見ながら足踏み
- ・けんこつ(筋力づくり)体操
- ・体操教室への参加 など

③定期的な体重測定

取り組んだ結果、「体が軽くなった」「お腹の周りがすっきりした」などの声が聞かれました。

【健診結果を生かす】

健診結果を改善するために、まずは気軽にできることから取り組んでみましょう。体重が気になる人なら1～2kg程度の減量でも、続けることで健診結果改善の効果があります。冬場は、屋外での運動が難しい時期です。総合体育館の利用や地域の運動教室への参加もおすすめです。

年1回は健診を受け、自分の結果を毎年確認しながら健康づくりに生かしましょう。



※市の健康増進計画「健康とおかまち21」では体重、血圧などの自己チェックを勧めています。まずは定期的な体重測定と年1回の健診から



大きくなった
ぼくのあさがお



丸山 ^{いぶき} 息吹さん (1年)

あさがおのつるがのびて、ぼくのあさがおと友だちのあさがおがつながりました。あさがおの花とつるが上手にかけてよかったです。



たまごから馬が
パッカパカパカーン



和田 ^{ゆうき} 勇輝さん (2年)

ぼくは馬が大好きです。のってみたいので、たまごから出てきてほしいと思いました。馬の体をかくのが大へんでした。水色の馬がいたらいいな。



ジュニア芸術祭

91

橘小学校



天使と悪魔の交流



片桐 ^{わたる} 渉さん (3年)

天使と悪魔が楽しく交流しているところです。いろいろな色を使い、顔の表じょうから楽しさが伝わってくるようにくふうしました。



秋をさがして
山と川



木村 ^{ゆいと} 唯人さん (4年)

工夫したことが2つあります。1つ目は、トンボの立体をはったことです。2つ目は、絵の具のぬり方をきれいにぬったことです。



一面に広がるえんぴつ



田中 ^{せいらん} 晴嵐さん (5年)

松代にある芸術作品を下から見上げて、いるところを表現しました。鉛筆をたくさん書くことが大変でした。上手にできてよかったです。



アート全部盛り



野沢 ^{しゅんすけ} 俊輔さん (6年)

ぼくは、「花咲ける妻有」と、その後ろにある農舞台と棚田、見えているすべてのアートを描きました。点描で花畑を工夫して描きました。